

「やまの健康」宣言

米原市伊吹北部地域



米原市伊吹北部地域「やまの健康」宣言

令和2年（2020年）1月発行

【推進体制】

東草野炭焼き & 食文化保存会	法雲 俊邑
伊吹くらしのやくそう倶楽部	嶋野 賢一
米原ドローン利活用研究会	野口 善司
上板並区（区長）	伊賀並 正信

この宣言は、滋賀県「やまの健康」推進プロジェクトにおいて
 令和元年（2019年）7月から12月にかけて開催した
 地域プラットフォーム（米原市伊吹北部地域関係者、滋賀県等
 （「やまの健康」推進事業担当者）の協議により作成されました。
 表紙写真は米原市教育委員会提供。
 文中写真は（公社）びわこビジターズビューロー提供。



"Image: Freepik.com" This cover design used resources from Freepik.com.



私たちは、

- ①農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって経済循環や県民全体・県外との関わりをつくること
- ②森林・林業・農山村を一体的に捉え、琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されること

これらを実施しながら、自然と共にある私たちの暮らしと文化がいつまでも続く姿（やまの健康）の実現に向けて、取り組みます。



滋賀県「やまの健康」モデル地域
米原市伊吹北部地域
 令和元年度（2019年度）～令和3年度（2021年度）

●地域の魅力

伊吹北部地域は、周囲を山に囲まれ、中央に姉川が流れる自然豊かな環境です。人々は、姉川上流に沿う地域に8つの集落を形成して暮らしています。その中で、東草野地域（甲津原、曲谷、甲賀、吉槻）に暮らす人々の営みを現す景観が、国の重要文化的景観に選定されました（東草野の山村景観）。

★自然環境

「まいばらの水」に選ばれた銘水をはじめ美味しい湧水・山水に恵まれています。水量が豊富で、小水力発電を行っています。寒暖の差が大きく良質の水に恵まれた棚田米の美味しさには定評があります。四季折々の表情を魅せる山の風景、鳥のさえずり、溪流のせせらぎは住む人の心を和ませます。

★立地環境

東海道新幹線「米原駅」や北陸自動車道「米原IC」からは、京阪神・中京・北陸へのアクセスが容易です。当地域からは車を利用すれば30分圏内には主要な商業・医療・行政施設が整っています。

★コミュニティ

良好な近所づきあいが保たれています。また地域おこし協力隊や移住者の受入実績があり、地域に受け入れ体制や受け入れる雰囲気があります。人口減少や森林の管理不足等の課題解決に向け、東草野地域では、平成27年度に「東草野地域の将来ビジョン」を策定され、地域住民が描く将来像に向けて活動を展開しています。また、上板並では森林資源・森林空間を活かし、小泉では棚田を活かすなど、地域ならではの資源を活かした活動を行っています。



伊吹北部地域には、甲津原、曲谷、甲賀、吉槻、上板並、下板並、大久保、小泉の8つの集落が含まれます。森林面積はおよそ5,062ha、水田耕作面積は83.2haであり、304戸・712人が暮らしています（令和元年（2019年）7月1日時点）。

■地域の課題

1. 人口減少

農山村での暮らしや文化に関心のある方と交流することで、関係人口を増やす取組を実施しています。移住される方が一定数見られるものの、それ以上に著しい自然減・社会減（直近10年で約30%減）が続いています。加えて、45%を超える高齢化率、独居世帯の増加も見られるなど、地域づくりに必要となる担い手の不足が深刻な状態です。

2. 森林

広葉樹林を活用して、かつては炭焼きにより生計を立てていましたが、エネルギーが化石燃料にシフトしたことで、活用・管理されることなく放置されています。また、人工林においても、木材価格の下落に伴い、地元住民でも森林に入ることがなく放置されている状況です。

3. 生活環境の悪化

人口減少に伴い、小中学校の休校や、路線バスの本数が少なくなりました。また、大きな病院やスーパーが徒歩圏内にないため、通院や買い物に困難な住民が多く、交通手段の確保や小さな拠点などの整備が重要です。

4. 野生獣被害

森林の適正管理がされないことなどに伴い、獣が集落まで下りてきて農作物の被害につながっています。ニホンジカ、イノシシ、サル等によって、家庭菜園・棚田等が荒らされています。主要な農地は電気柵や鉄柵等で防護していますが、それを破って侵入されることも珍しくなく、農地の管理が困難になっています。

また、道路や集落内で野生動物との遭遇や車との接触事故が頻繁に見られます。

●「やまの健康」事業で目指す地域の将来像

米原市では平成21年（2009年）6月に「水源の里まいばら元気みらい条例」が施行され、市役所も琵琶湖の水源である農山村地域の活性化に次の6つの基本方針に基づき取り組んでいます。

- ・水源の里としての誇りと価値を創造し、その価値をいかした地域像の育成および発信
- ・水源の里の魅力や重要性を学び、上流と下流のかけがえのない関係を実感させる自然体験教育の推進
- ・地域の住みよさ向上と定住促進を目指す集落等の連携による誇りの創出および総合的な空き家対策の推進
- ・水源の里の資源を持続的に守り、いかす新産業の創出および人材の育成
- ・過疎、高齢化に対応した生活基盤整備の促進および地域の安全確保策の支援強化
- ・先人から引き継いだ地域独自の文化を大切にしながら、今に生きる人々の知恵や技などを融合し、次代に引き継ぐ新たな文化の創造

今回の事業において、これらの基本方針や「やまの健康」の考え方に沿う活動を展開して、課題解決を図り、自然と共にある私たちの暮らしがいつまでも続くよう、次のような将来像（やまの健康の姿）の実現に向けて取り組めます。

①地域の人々が持てる力を発揮し、地域資源を活かした生業を創出することで、高齢者、障がい者、認知症の方や新たに就労を希望する方たちが輝いて働ける仕組みを作り、地域経済の好循環を図ります。さらには大学等の教育機関や民間企業、一般団体、県民の皆様等と連携して活動を展開していくことで、関係人口の増や、移住・定住によって担い手不足も解消して、地域の人々がいきいきと暮らす姿を目指します。

②集落に接する森林や農地を、資源活用、獣害対策、防災対策などの実践の場として位置付け、各種活動を進めることによって、地域の人々が森林や農地に関心を持ち、自伐型林業の推進や集落営農等、集落ぐるみでいきいきと森林や農地を管理・活用する姿を目指します。

■課題に対する取組

1. 人口減少対策への取組

以下の取組を進め、地域に生業を創り、地域の人々が輝いて働ける仕組みを作ります。魅力的な取組によって関係人口が増え、移住定住へのつながりを促進します。

森林空間を活用した取組として、風倒木の処理などを行うとともに、地域の作業道を活用できるよう補修を行うことで林道トレイル、マウンテンバイクロード、山野草ロードとして整備し、やまに人々が入る仕組みを作ります。

森の恵みを活用した取組として、やまに入り山菜を採取したり、近隣の畑で山椒・ミョウガを栽培したりするなど中山間地域ならではの産物を生産します。その後、加工・販売する6次産業化の検討や販路開拓を行い、森の恵みを活用した経済循環につなげます。

棚田を活用した取組として、染料になる「イブキカリヤス」や「ニホンアカネ」を栽培し、染色の材料として商品化を行います。また、草木染ワークショップを開催するなど、グリーンツーリズムによる関係人口の創出につなげるとともにこれらを将来的に若い人の生業にできるよう、持続可能な仕組みを構築します。

また、千年の歴史のある伊吹山地の薬草ブランドを復活させ、薬草ブランド・クラフトビールの商品化を目指し、地域の産業おこしや地域の雇用創出につなげます。このことにより、野生獣による被害により継続が困難な中山間地域の農業の下支えにすることを目指します。

2. 森林適正管理に向けた取組

過去に作った炭窯を活用した取組として、伝統の炭焼きを復活させ、文化の継承を行います。併せて炭の販売を行い地域の豊富な森林資源を活用した取組を進めます。

木材資源を活用した取組として、間伐材のバイオマス燃料としての利用、循環型社会の構築を目指した木製コンポスト製造販売等による里山林業の実践を継続し、普及を図ります。

3. 生活環境の改善に向けた取組

上記1、2の取組などを通じて、コミュニティビジネスが生まれ、地域の生活環境が良くなることを目指します。また、休校中の小中学校の活用を検討します。

4. 野生獣被害防止に向けた取組

野生獣の被害防止対策としてドローンを活用します。また、中山間地域は飛行障害となる建築物や工作物が少ないことから、若者が参画するドローンを活用した新しいビジネスの展開を検討します。